

岡山県感染症週報 2015年 第28週 (7月6日～7月12日)

◆2015年 第28週 (7/6～7/12) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第26週 2類感染症 結核 2名 (70代 女 1名、80代 女 1名)

第27週 2類感染症 結核 1名 (80代 男)

4類感染症 レジオネラ症 1名 (50代 男)

5類感染症 水痘 (入院例に限る) 1名 (80代 女)

第28週 2類感染症 結核 6名 (20代 男 1名、30代 男 1名、50代 男 1名、70代 男 1名、80代 女 1名、90代 女 1名)

3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O103:小学生 女)

■定点把握感染症の発生状況

○手足口病は、県全体で277名 (定点あたり5.39→5.13人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

○ヘルパンギーナは、県全体で136名 (定点あたり1.72→2.52人) の報告があり、前週より増加しました。

○伝染性紅斑は、県全体で25名 (定点あたり0.28→0.46人) の報告があり、前週より増加しました。

○流行性耳下腺炎は、県全体で25名 (定点あたり0.59→0.46人) の報告があり、前週より減少しましたが、美作地域では前週にひきつづき、発生レベル2となっています。

1. **手足口病**は、県全体で277名 (定点あたり5.39→5.13人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、岡山市 (7.43人)、美作地域 (6.17人)、倉敷市 (6.00人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「**今週の注目感染症 (1)**」をご覧ください。
2. **ヘルパンギーナ**は、県全体で136名 (定点あたり1.72→2.52人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、岡山市 (4.36人)、倉敷市 (3.64人)、備中地域 (2.00人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「**今週の注目感染症 (2)**」をご覧ください。
3. **伝染性紅斑**は、県全体で25名 (定点あたり0.28→0.46人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、備中及び美作以外の全ての地域で発生報告がありますが、特に岡山市 (1.36人) で例年の同時期と比較して多い状況です。全国の第27週発生状況では、東日本及び九州地方を中心に流行しており、長野県 (2.59人)、大分県 (2.58人)、福島県 (1.91人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、ヒトパルボウイルスB19の感染によるもので、小児を中心にみられる流行性発疹性疾患です。風邪の様な症状で発症した後、両頬がりんごのように赤くなることから、「りんご病」とも呼ばれています。妊娠中 (特に妊娠初期) に感染した場合、胎児異常 (胎児水腫) や流産の危険があるため、妊娠中の方は伝染性紅斑が周囲で流行している時、風邪の症状がある人に出来るだけ近づかないよう注意が必要です。
4. **流行性耳下腺炎**は、県全体で25名 (定点あたり0.59→0.46人) の報告があり、前週より減少しました。地域別では、前週にひきつづき美作地域 (3.83人) で患者数が多くなっており、大きな流行が発生する可能性がある「発生レベル2」となっています。この感染症は、ムンプスウイルスに感染することで発症するウイルス感染症で、「おたふくかぜ」とも呼ばれています。予後は一般に良好ですが、まれに無菌性髄膜炎、感音性難聴、精巣炎などの合併症を引き起こすことがあり、年齢が高くなるにつれて症状が重くなる傾向があります。有効な特效薬はなく、治療は対症療法が中心です。効果的に予防する唯一の方法は、ワクチンを接種することであり、集団生活に入る前にワクチンで予防しておくことが、最も有効な感染予防となります。

**夏休み期間中に海外へ渡航する方向けの感染症情報が、
厚生労働省のホームページからご覧いただけます。**

海外には、日本国内に通常存在しない感染症があります。安全で快適な旅行にするためには、出発前にあらかじめ渡航先の衛生状況や感染症に関する情報を入手しておくことが大切です。渡航先では感染症にかからないよう気をつけ、帰国時に体調不良があれば空港の検疫所に相談しましょう。また、帰国後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は渡航先も伝えましょう。

☆ [夏休み期間中における海外での感染症予防について](#) (厚生労働省ホームページ)

☆ [夏休みに海外へ渡航される皆さまへ!](#) (厚生労働省検疫所ホームページ)

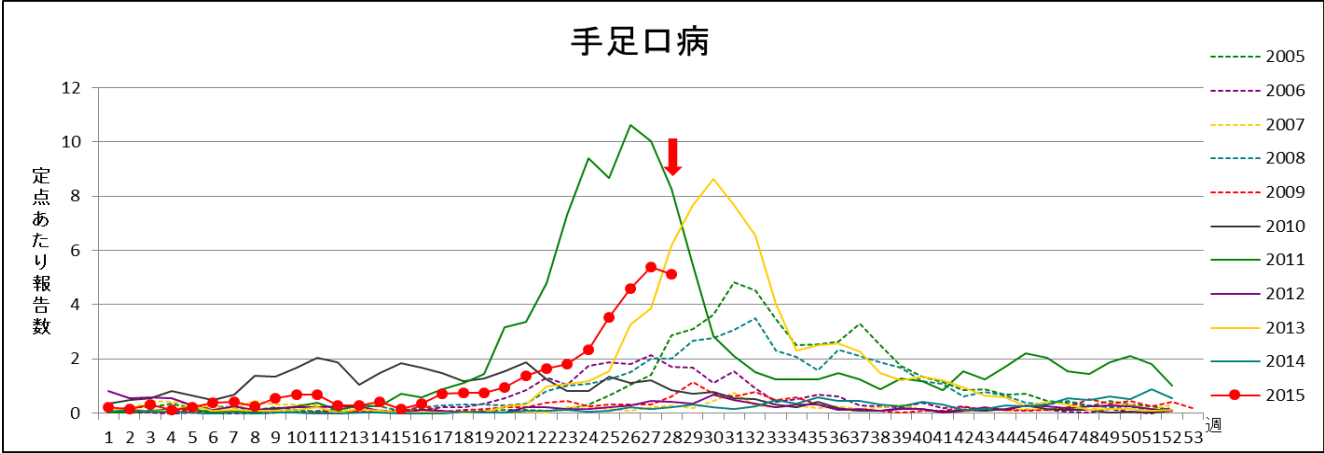
流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★	RSウイルス感染症	➡	★★
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★★
感染性胃腸炎	➡	★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★★	伝染性紅斑	➡	★★★★
突発性発疹	➡	★	百日咳	➡	
ヘルパンギーナ	➡	★★	流行性耳下腺炎	➡	★
急性出血性結膜炎	➡		流行性角結膜炎	➡	★
細菌性髄膜炎	➡		無菌性髄膜炎	➡	
マイコプラズマ肺炎	➡		クラミジア肺炎	➡	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

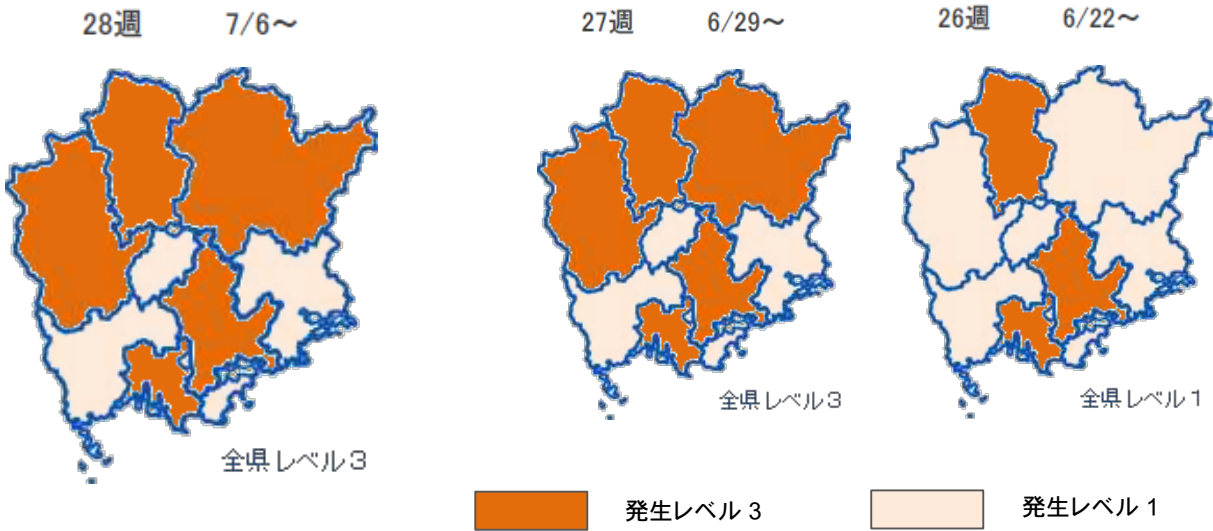
【記号の説明】 前週からの推移：
↓ : 2 倍以上の減少 ↘ : 1.1～2 倍未満の減少 ➡ : 1.1 未満の増減
↗ : 1.1～2 倍未満の増加 ↑ : 2 倍以上の増加
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。
空白:発生なし ★: 僅か ★★:少し ★★★:やや多い ★★★★:多い ★★★★★:非常に多い

今週の注目感染症（1）
手足口病

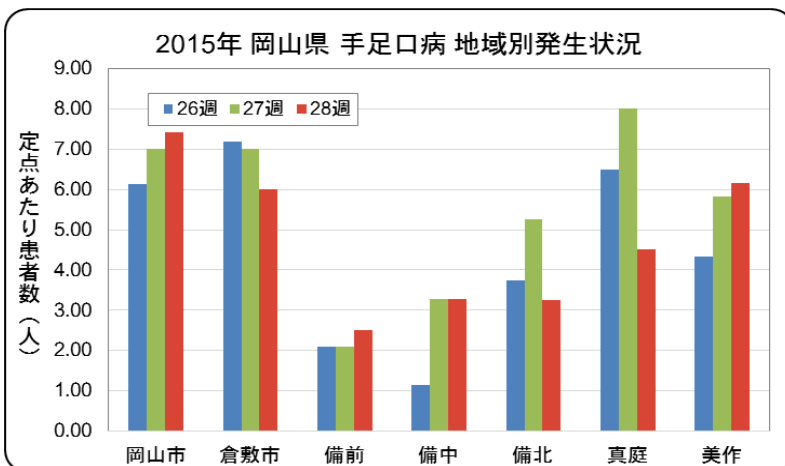
【岡山県の発生状況】



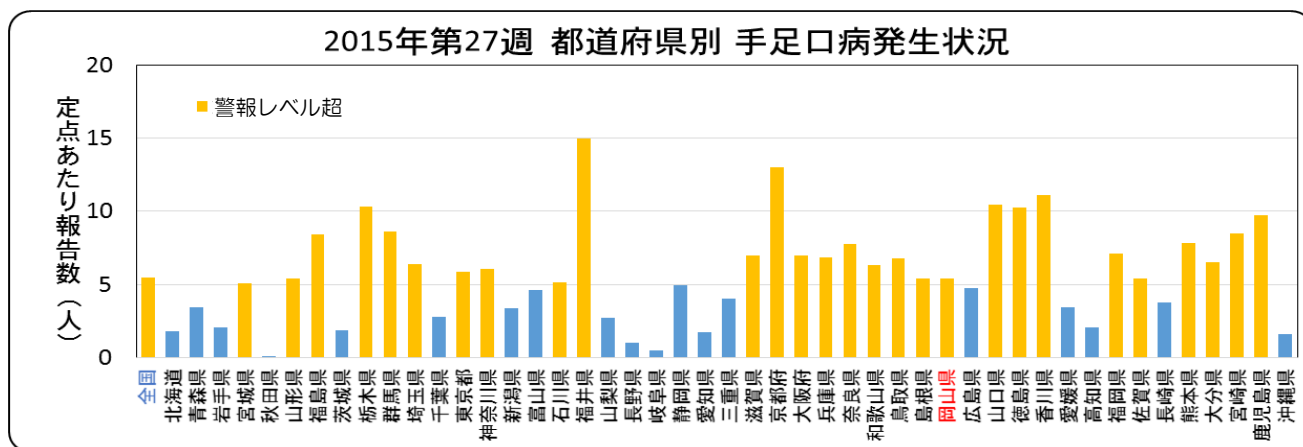
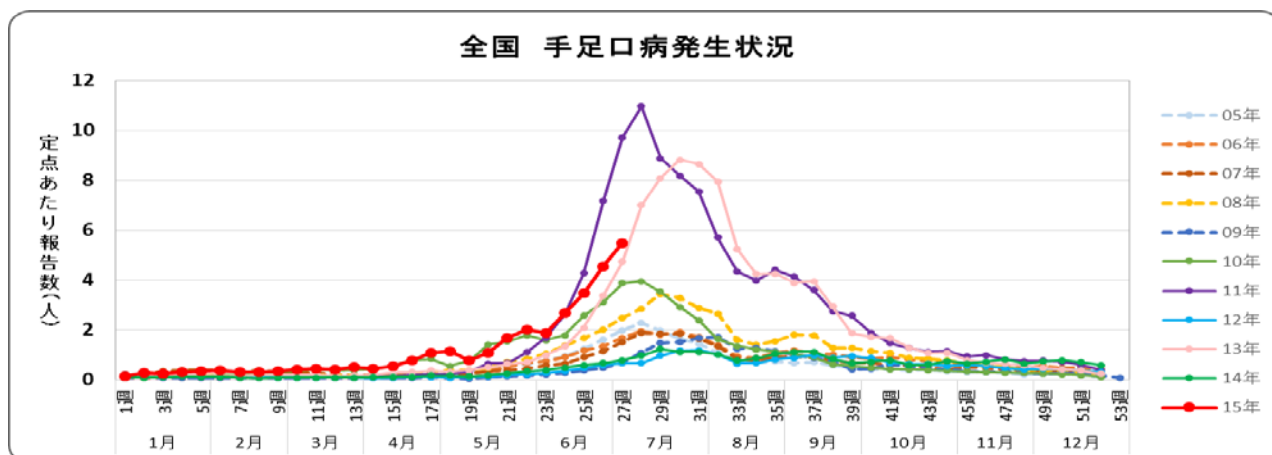
岡山県地区別 手足口病感染症マップ



手足口病は、県全体で 277 名（定点あたり 5.39 → 5.13 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。県下全体の発生レベルは、前週にひきつづきレベル 3 で推移しています。地域別では、岡山市（7.43 人）、美作地域（6.17 人）、倉敷市（6.00 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備前及び備中を除く全ての地域で、発生レベル 3 となっています。例年、7～8 月頃に流行がピークとなりますので、ひきつづき県内の発生状況に注意してください。



【全国の発生状況】



全国の第 27 週の発生状況は、定点あたり 5.48 人で、4 週連続で増加しています。都道府県別では、福井県（15.00 人）、京都府（13.01 人）、香川県（11.14 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、28 都府県で警報レベルを超える流行となっています。

2015 年 7 月 10 日までに報告された全国の手足口病患者から検出されたウイルスは、コクサッキーウイルス A 16 型（56%）が最も多く、次いでコクサッキーウイルス A 6 型（23%）となっています。

[IDWR 速報データ 2015 年第 27 週（国立感染症研究所）](#)

【手足口病とは】

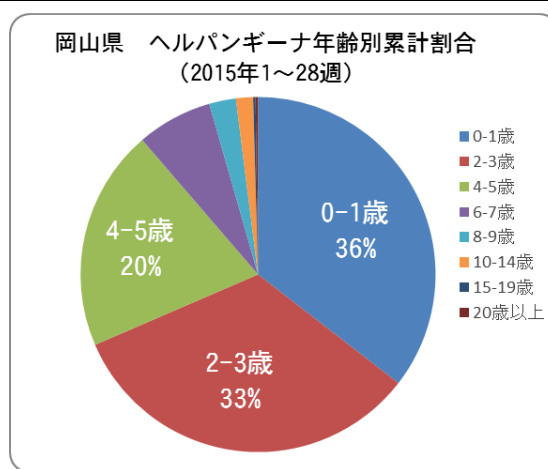
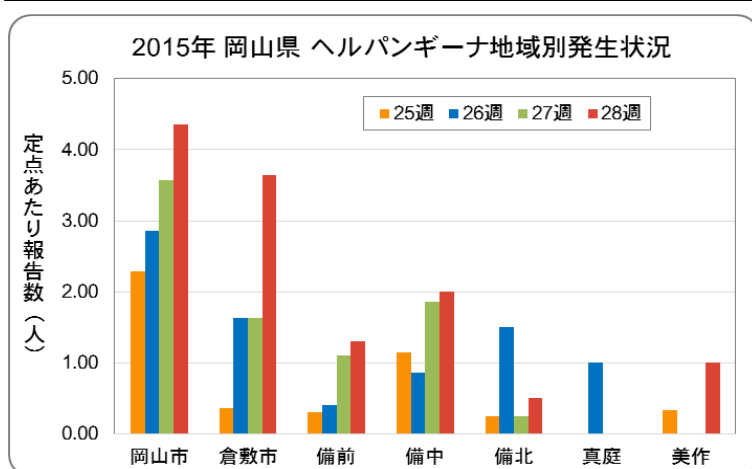
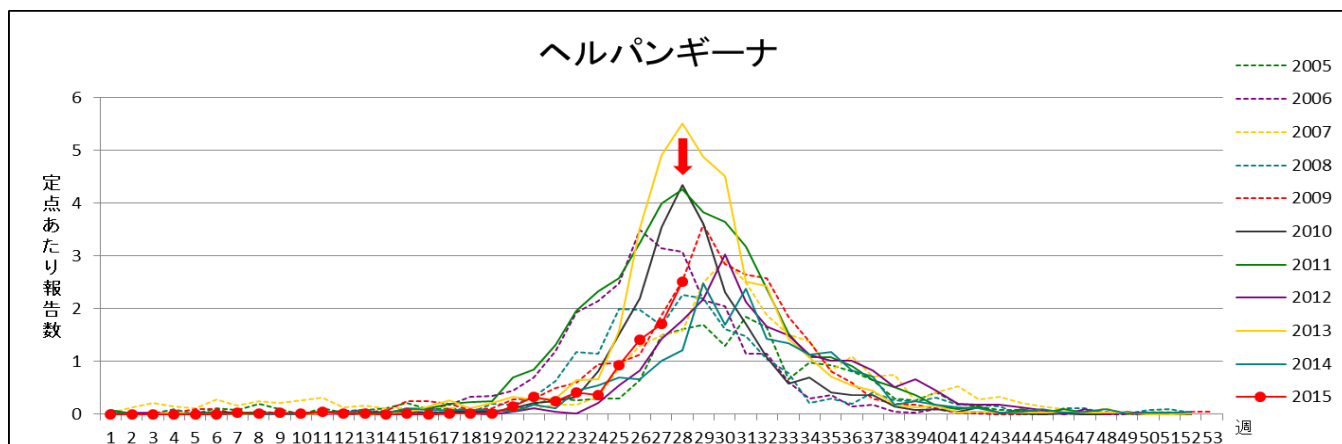
夏に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。コクサッキーウイルス、エンテロウイルスなどが原因となります。主な感染経路は、咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込む飛沫感染や、水疱の内容物や便中に排出されたウイルスが手指を介して口に入る経口感染、ウイルスが付いた手で眼や鼻などの粘膜に触れることによる接触感染です。症状は、3～5 日の潜伏期間の後、軽度の発熱とともに、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に 2～3mm の水疱性発しんが出現するのが特徴です。3～7 日で水疱が消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎、脳炎を起こすことがあります。特に、エンテロウイルス 71 型による手足口病は、中枢神経系合併症など、重症化する割合が高いと言われています。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒・排泄物を適切に処理など、感染予防に努めましょう。

[手足口病とは（国立感染症研究所）](#)

今週の注目感染症（２）

ヘルパンギーナ

【岡山県の発生状況】



ヘルパンギーナは、県全体で136名（定点あたり1.72 → 2.52人）の報告があり、4週連続で増加しました。地域別では、岡山市（4.36人）、倉敷市（3.64人）、備中地域（2.00人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。2015年第28週までの年齢別累計割合では、5歳以下の乳幼児が全体の89%を占めています。

全国の第27週の発生状況は、定点あたり報告数が1.92人と、8週連続で増加しました。都道府県別では、三重県（5.91人）、愛媛県（4.84人）、福岡県（4.64人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

例年、7月頃が流行のピークとなりますので、今後の発生状況に注意するとともに、患者との接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒を励行するなど、感染予防に努めましょう。

【ヘルパンギーナとは】

ヘルパンギーナは、夏に発生する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表的なもので、A群コクサッキーウイルスなどが主な原因です。主な感染経路は、咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込む飛沫感染や、便の中に排出されたウイルスが、手指などを介して口に入る経口感染などです。毎年、5月頃より患者が増加し始め、7月頃にピークとなる傾向があります。

【症 状】

症状は、突然の発熱につづいてのどが痛くなり、口腔内に直径1～5mmほどの赤い小水疱が、多数出現するのが特徴です。小水疱は、やがて破れて痛みを伴います。通常、2～4日で軽快し予後は良好ですが、発熱時に熱性けいれんを伴うことや、口腔内の痛みのため、食事や水分を十分にとれず脱水症状を呈することがあります。まれに、無菌性髄膜炎や急性心筋炎などを合併することもあるため、お子さんの状態に注意し、頭痛や嘔吐がみられる際には、早めに医療機関を受診してください。

【予 防】

患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を行い、オムツや便の取り扱い時には使い捨てのゴム手袋を使用するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。症状が治まっても、2～4週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、保育園、幼稚園、学校などの集団生活では注意が必要です。

[ヘルパンギーナとは（国立感染症研究所）](#)

保健所別報告患者数（定点把握）2015年 28週

（ 2015/07/06～2015/07/12 ）

2015年7月16日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.02	—	—	—	—	—	—	2	0.17	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	5	0.09	2	0.14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	0.50
咽頭結膜熱	14	0.26	5	0.36	4	0.36	—	—	1	0.14	1	0.25	—	—	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	45	0.83	18	1.29	14	1.27	4	0.40	3	0.43	2	0.50	—	—	4	0.67
感染性胃腸炎	284	5.26	58	4.14	70	6.36	59	5.90	25	3.57	31	7.75	14	7.00	27	4.50
水痘	12	0.22	9	0.64	1	0.09	—	—	1	0.14	—	—	—	—	1	0.17
手足口病	277	5.13	104	7.43	66	6.00	25	2.50	23	3.29	13	3.25	9	4.50	37	6.17
伝染性紅斑	25	0.46	19	1.36	3	0.27	1	0.10	—	—	1	0.25	1	0.50	—	—
突発性発疹	15	0.28	6	0.43	5	0.45	2	0.20	—	—	—	—	1	0.50	1	0.17
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	136	2.52	61	4.36	40	3.64	13	1.30	14	2.00	2	0.50	—	—	6	1.00
流行性耳下腺炎	25	0.46	2	0.14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23	3.83
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（－： 0 or 0.00 ） （ 空白： 定点なし ）

保健所別報告患者数（発生レベル設定疾患）2015年 28週

（ 2015/07/06～2015/07/12 ）

2015年7月16日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.02	－	－	－	－	－	－	2	0.17	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	14	0.26	5	0.36	4	0.36	－	－	1	0.14	1	0.25	－	－	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	45	0.83	18	1.29	14	1.27	4	0.40	3	0.43	2	0.50	－	－	4	0.67
感染性胃腸炎	284	5.26	58	4.14	70	6.36	59	5.90	25	3.57	31	7.75	14	7.00	27	4.50
水痘	12	0.22	9	0.64	1	0.09	－	－	1	0.14	－	－	－	－	1	0.17
手足口病	277	5.13	104	7.43	66	6.00	25	2.50	23	3.29	13	3.25	9	4.50	37	6.17
伝染性紅斑	25	0.46	19	1.36	3	0.27	1	0.10	－	－	1	0.25	1	0.50	－	－
百日咳	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	136	2.52	61	4.36	40	3.64	13	1.30	14	2.00	2	0.50	－	－	6	1.00
流行性耳下腺炎	25	0.46	2	0.14	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	23	3.83
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第28週 2015/07/06～2015/07/12)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	5	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	14	-	1	4	2	-	2	-	2	-	1	-	2	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	45	-	1	-	4	4	5	6	8	3	4	3	5	1
感染性胃腸炎	284	2	21	44	36	26	24	18	11	10	12	10	31	7
水痘	12	-	-	2	-	1	3	4	-	1	-	-	1	-
手足口病	277	3	22	74	50	45	36	18	16	3	1	1	5	-
伝染性紅斑	25	-	-	1	3	2	3	3	4	4	1	1	3	-
突発性発疹	15	2	6	4	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	136	1	12	27	24	20	21	12	9	4	1	2	3	-
流行性耳下腺炎	25	-	-	2	2	2	3	7	2	2	3	1	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-

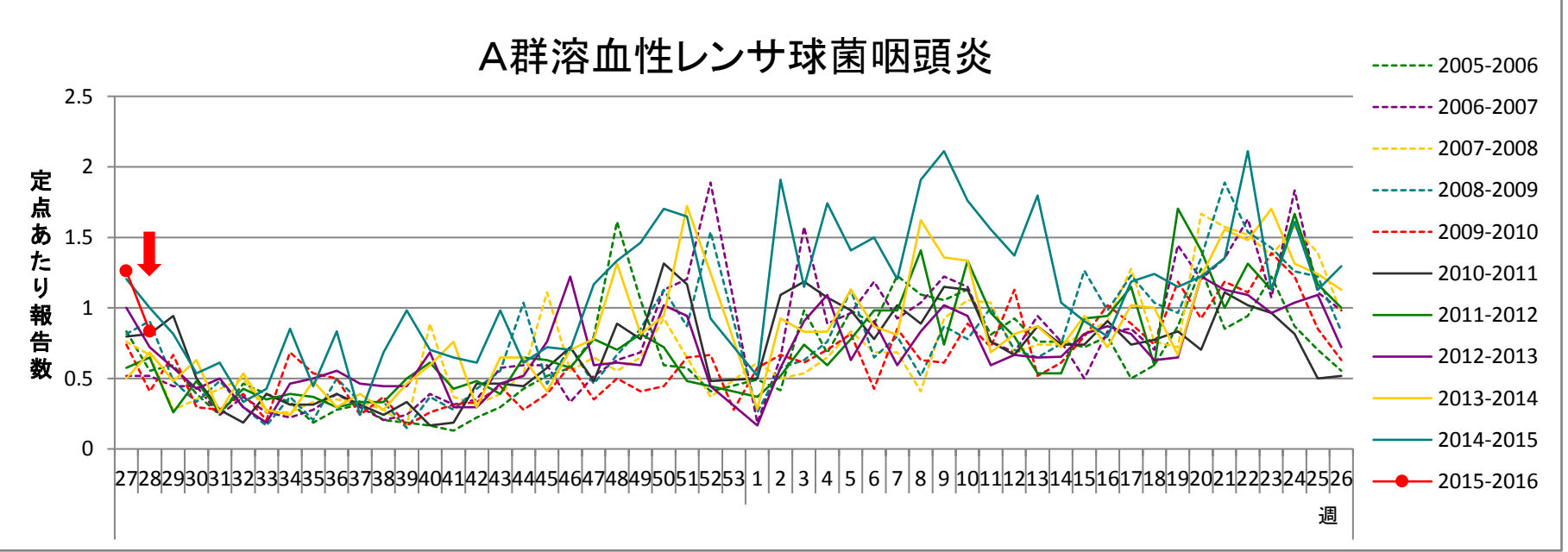
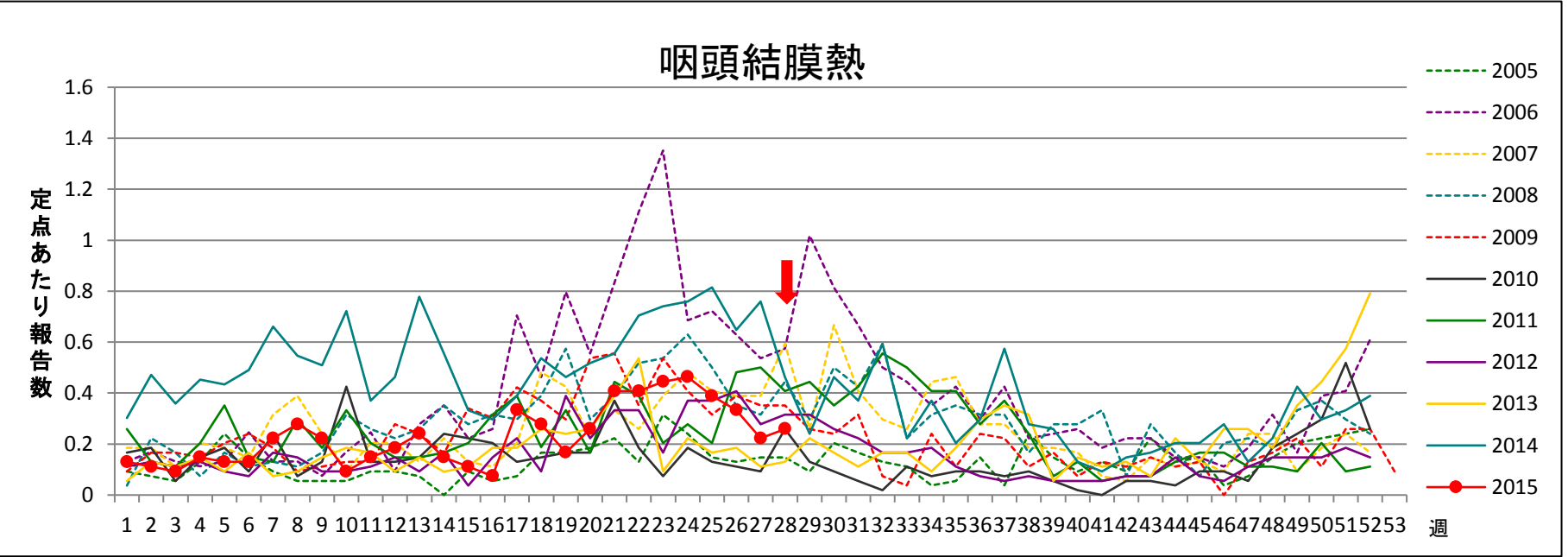
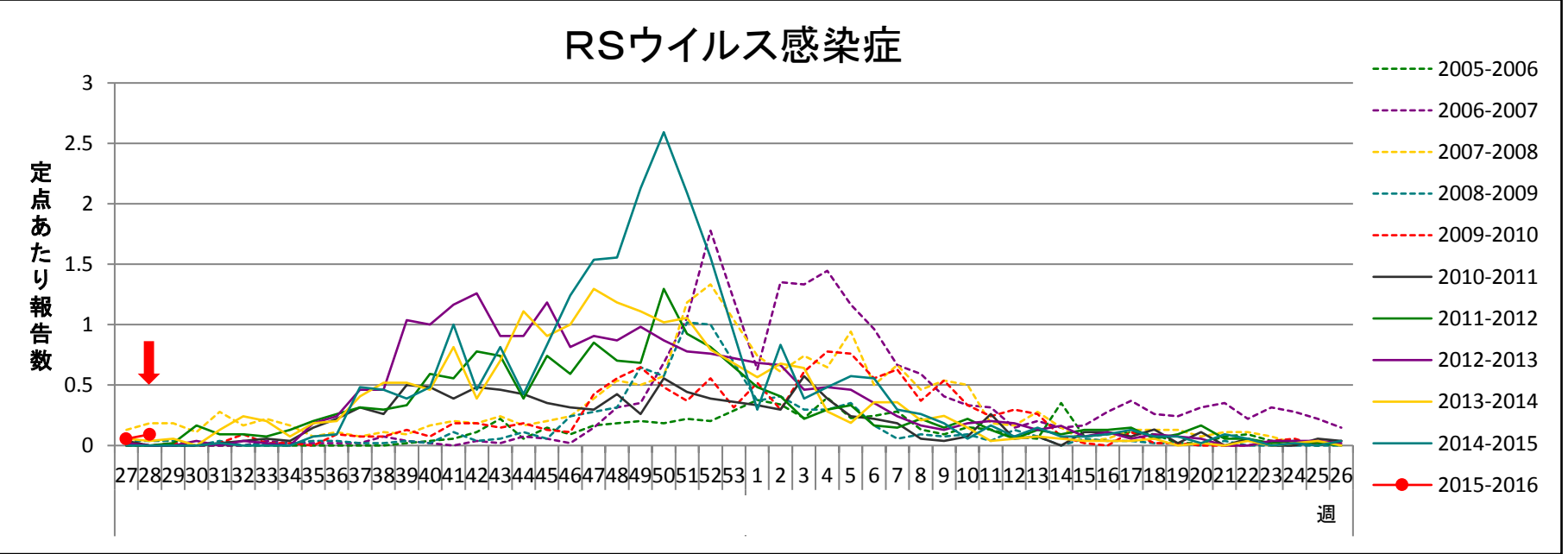
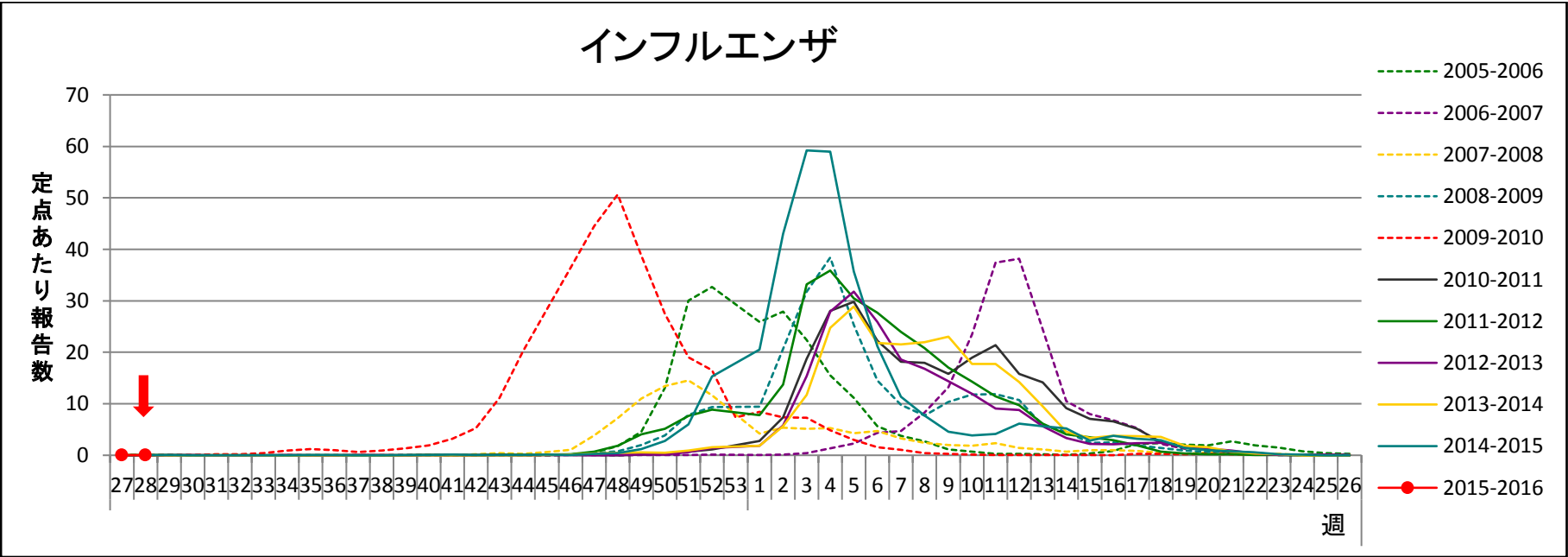
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

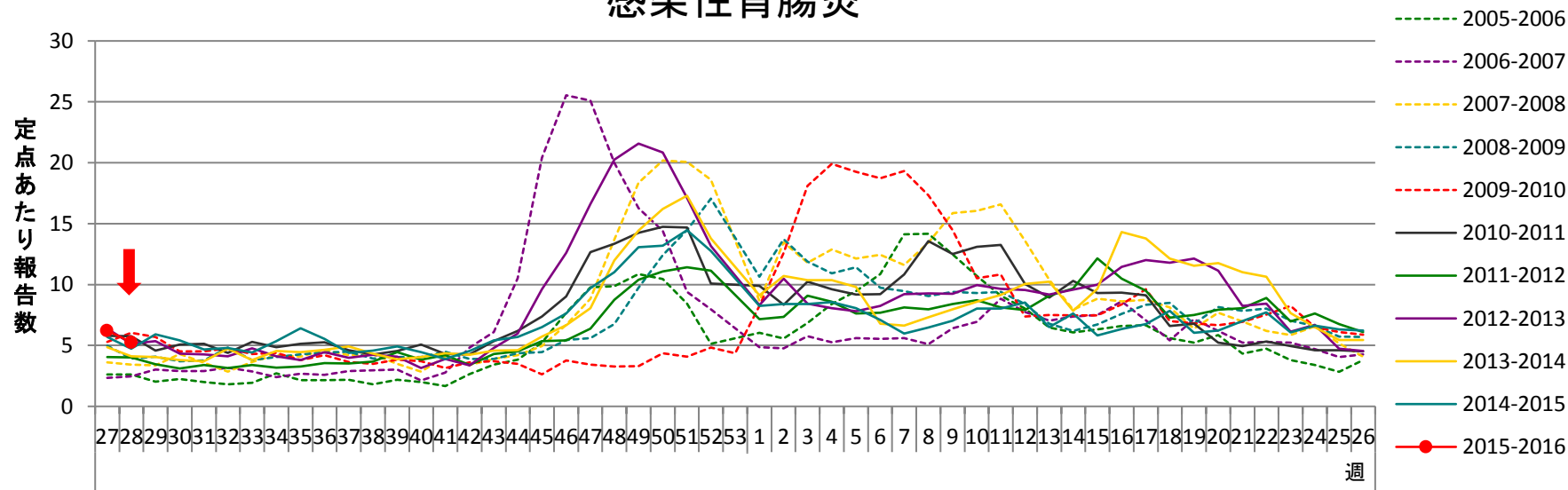
全数把握 感染症患者発生状況

2015 年 28 週

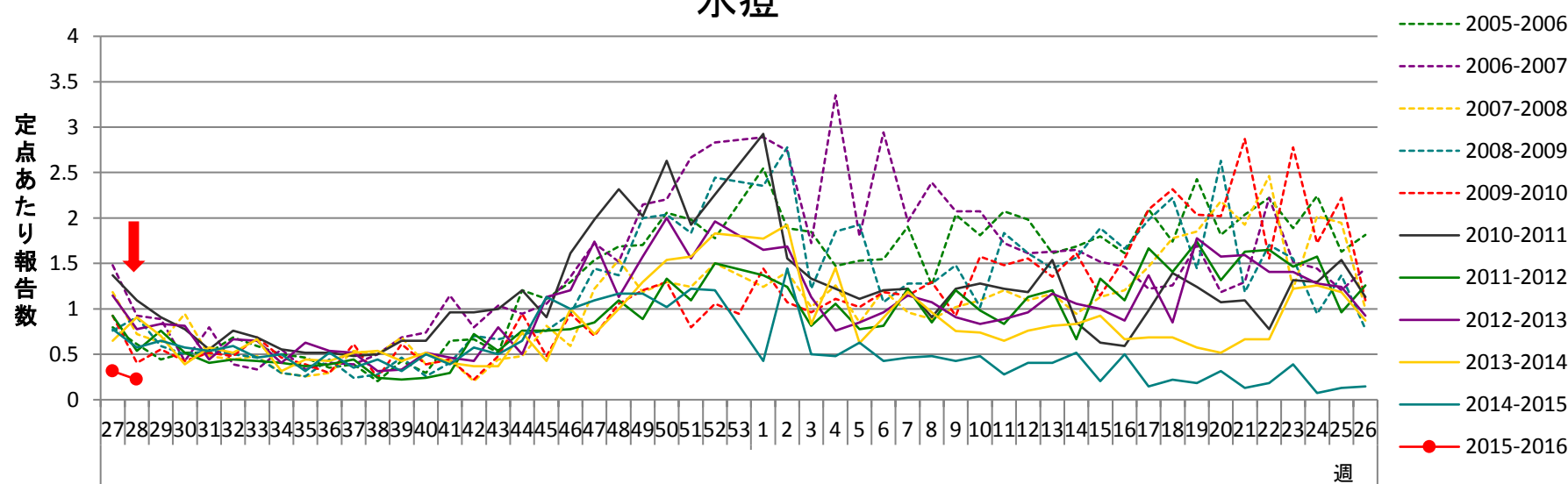
分類	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	6	172	384	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	1	-	腸管出血性大腸菌感染症	1	11	71
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	2	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	6	8
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	2	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	4	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ボツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	1	-	野兔病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	13	32	レプトスピラ症	-	-	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	11	12	ウイルス性肝炎*3	-	4	7	カルバベナム耐性腸内細菌科細菌感染	-	22	12
	急性脳炎*4	-	9	9	クリプトスポリジウム症	-	1	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	3	後天性免疫不全症候群	-	14	21	ジアルジア症	-	-	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	20	27
	水痘(入院例に限る。)	-	2	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	8	21
	播種性クリプトкокクス症	-	1	1	破傷風	-	-	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	2	風しん	-	-	2	麻しん	-	-	6
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-



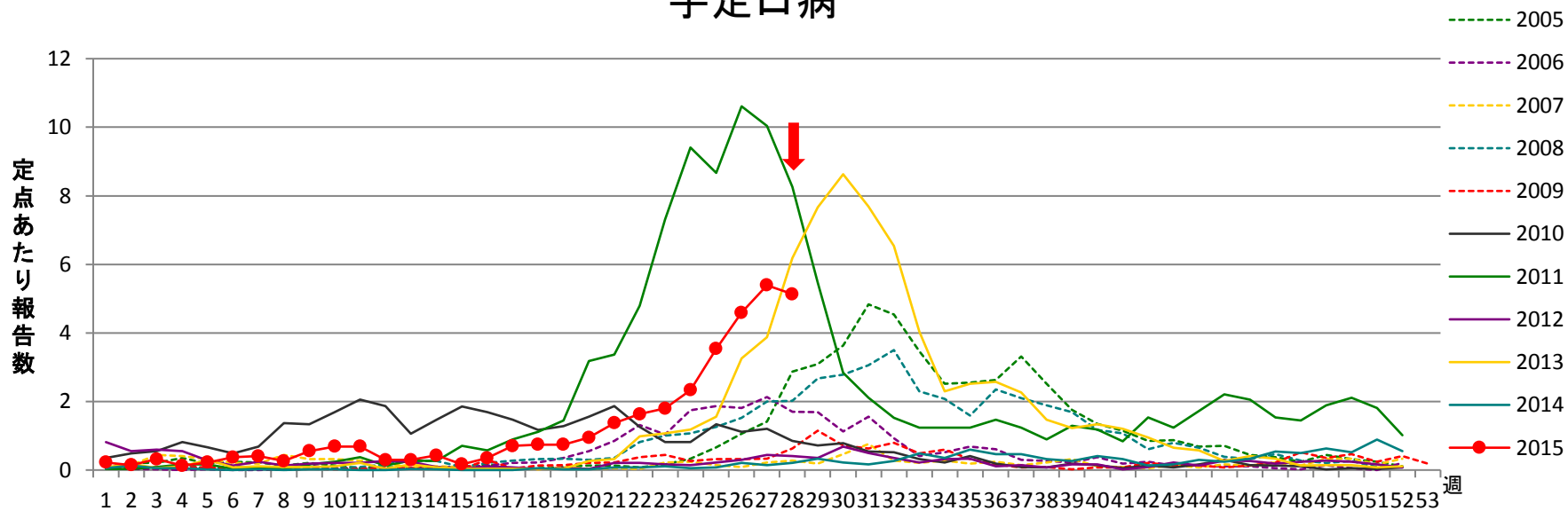
感染性胃腸炎



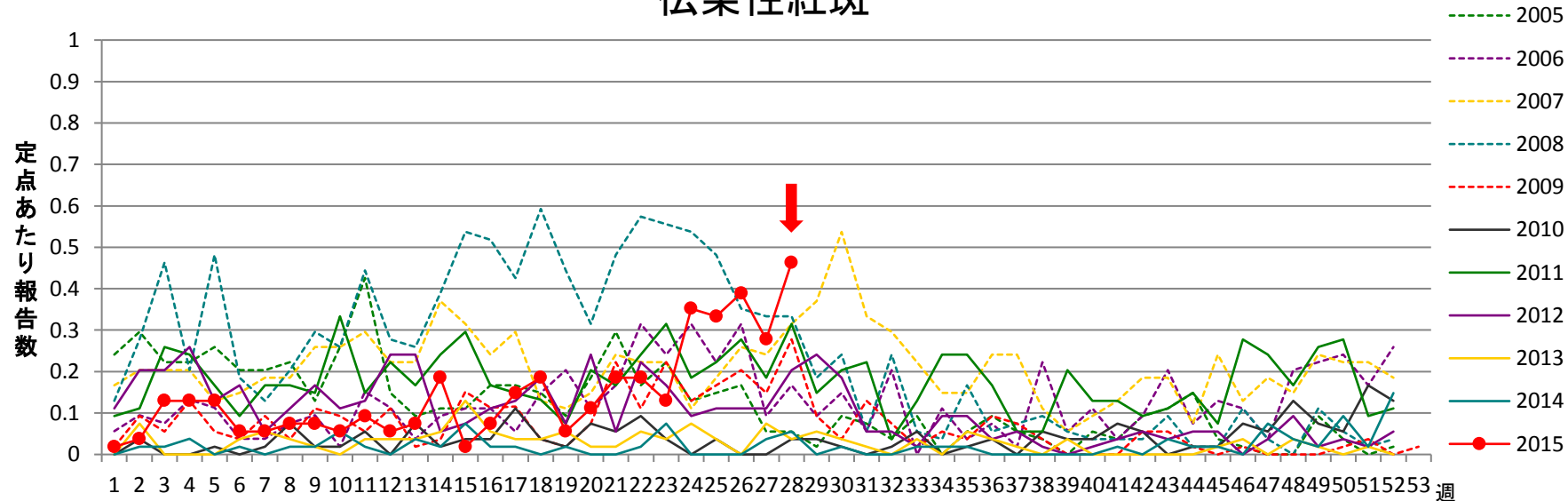
水痘



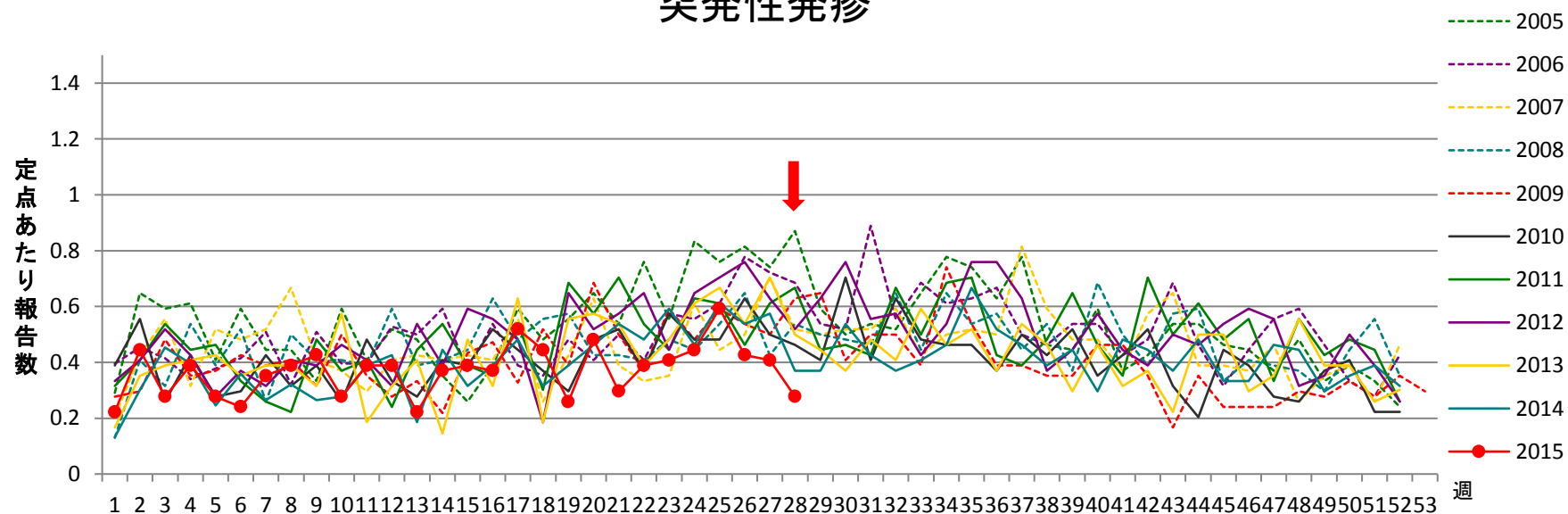
手足口病



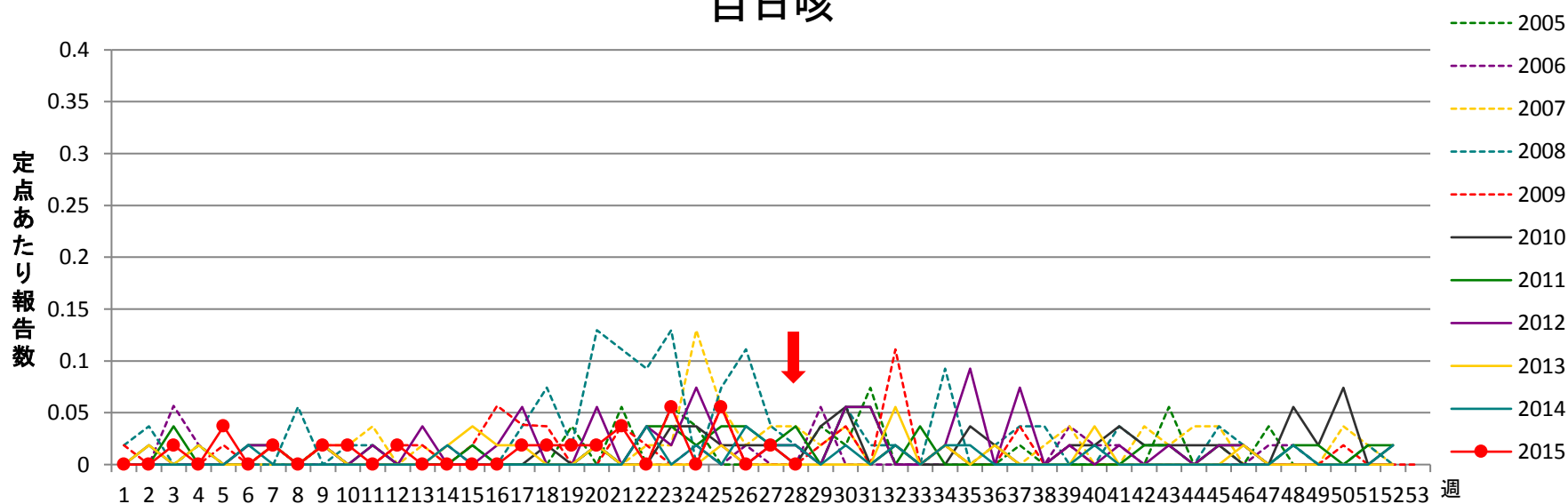
伝染性紅斑



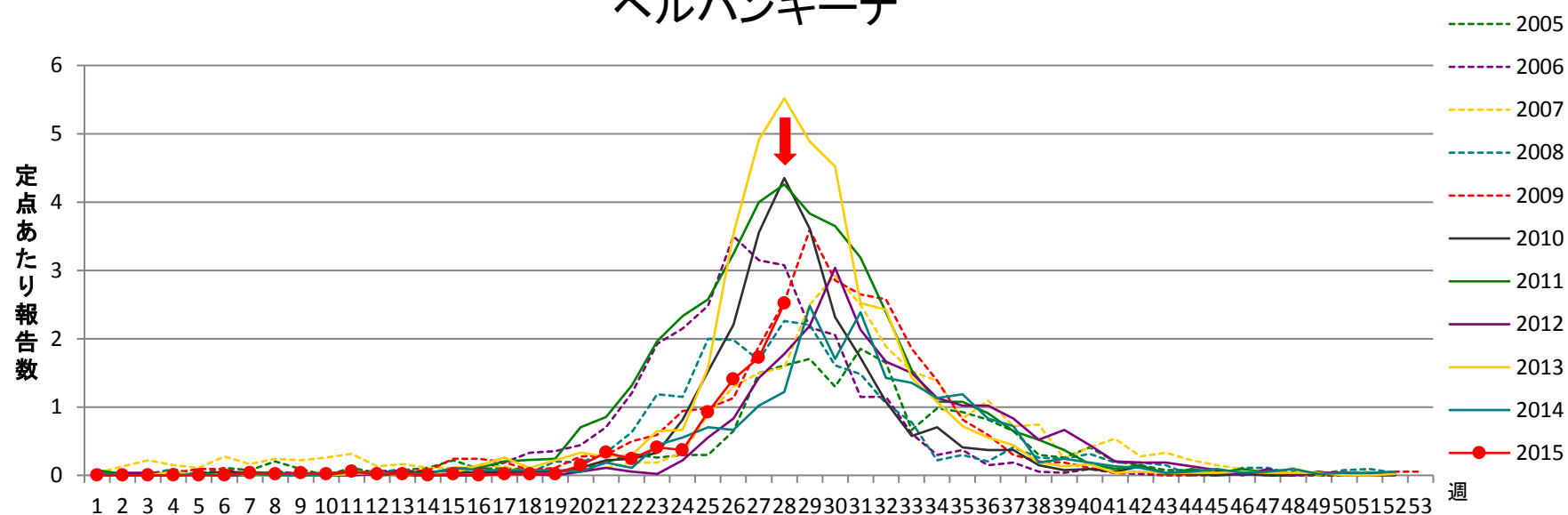
突発性発疹



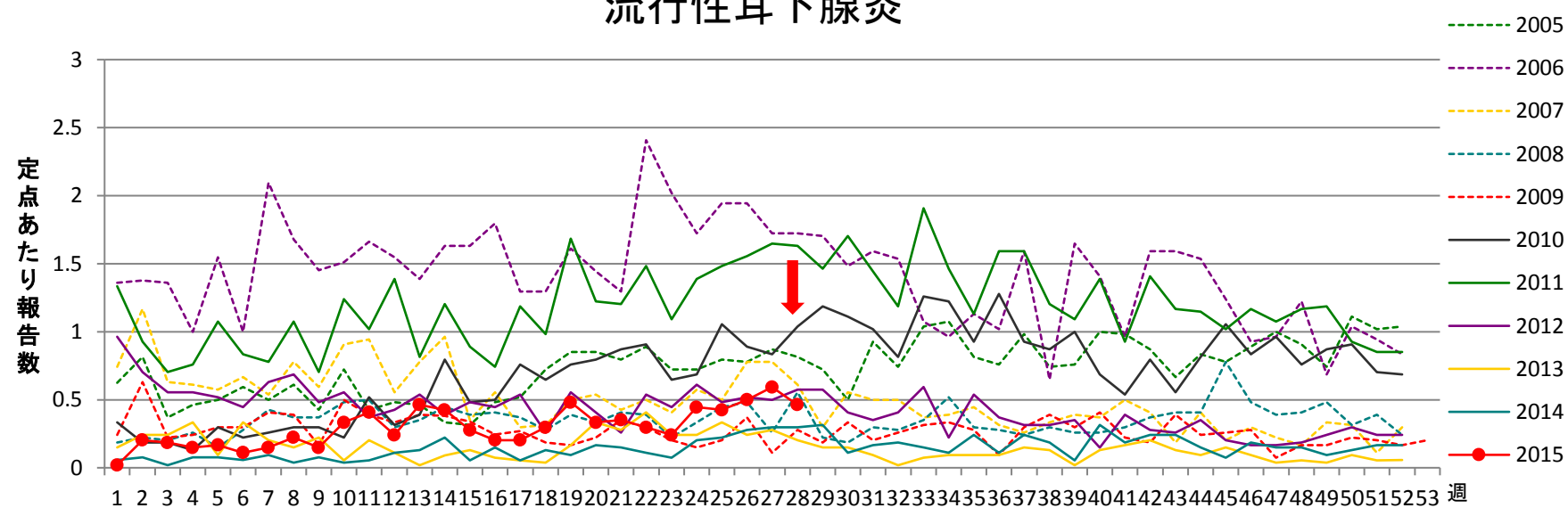
百日咳



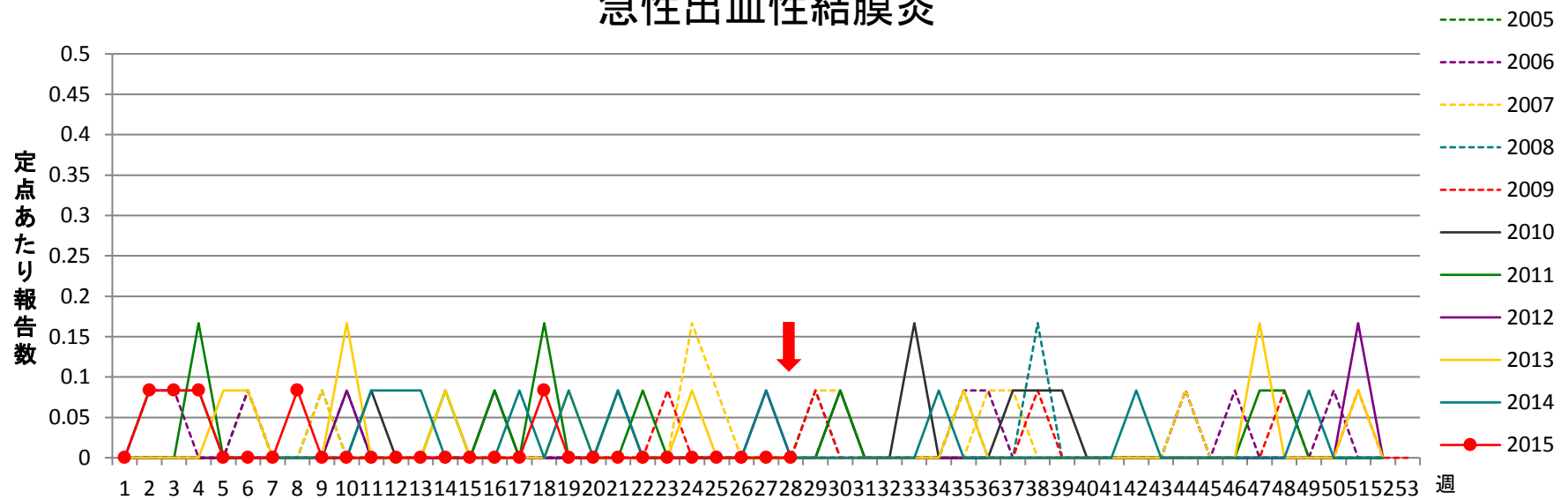
ヘルパンギーナ



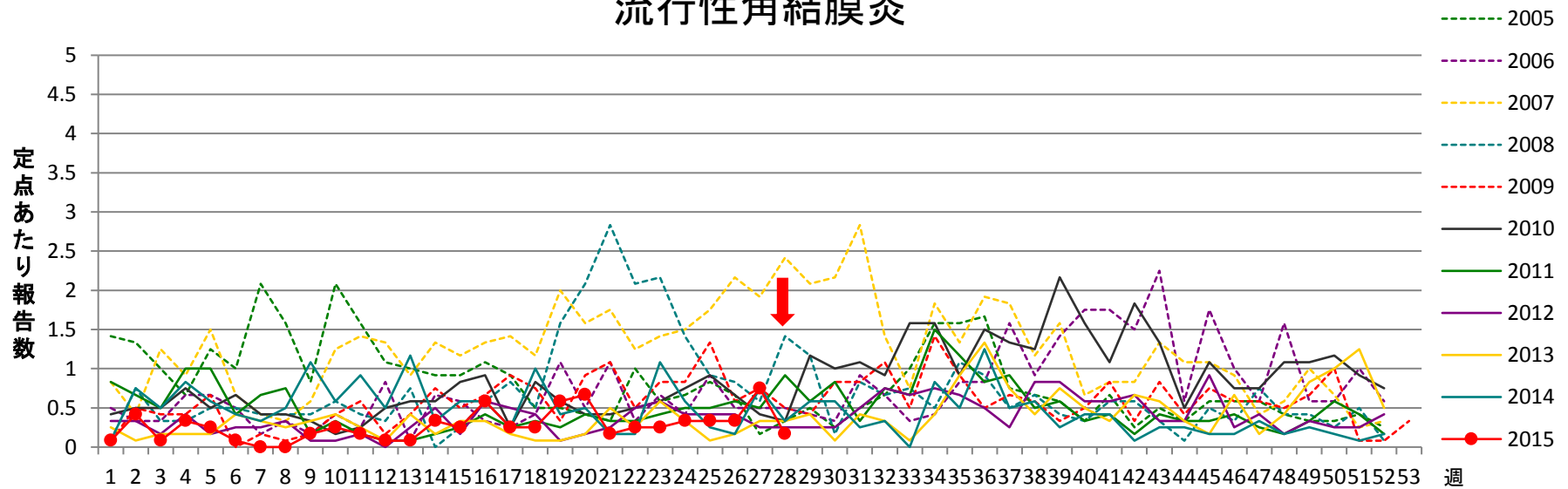
流行性耳下腺炎



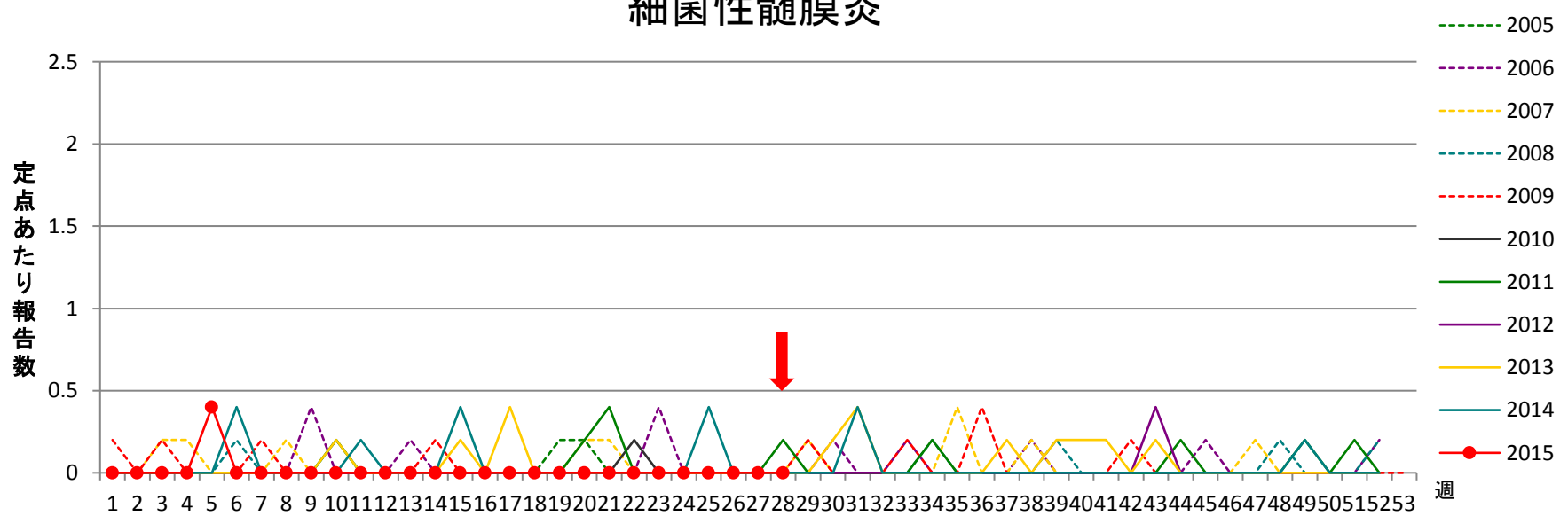
急性出血性結膜炎



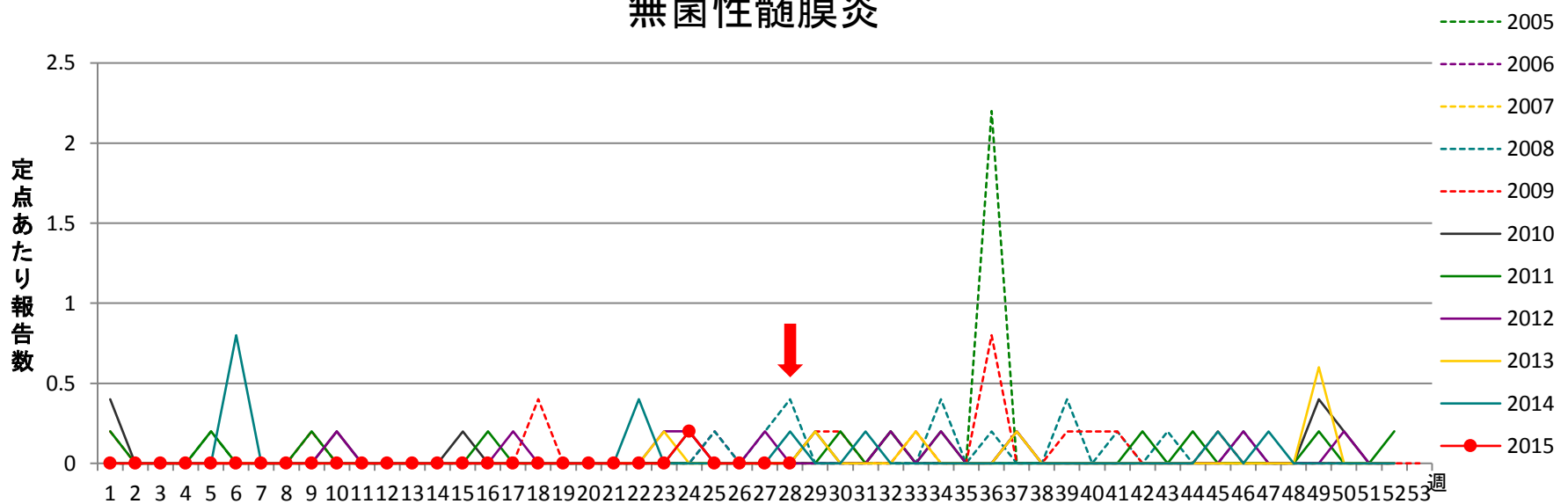
流行性角結膜炎



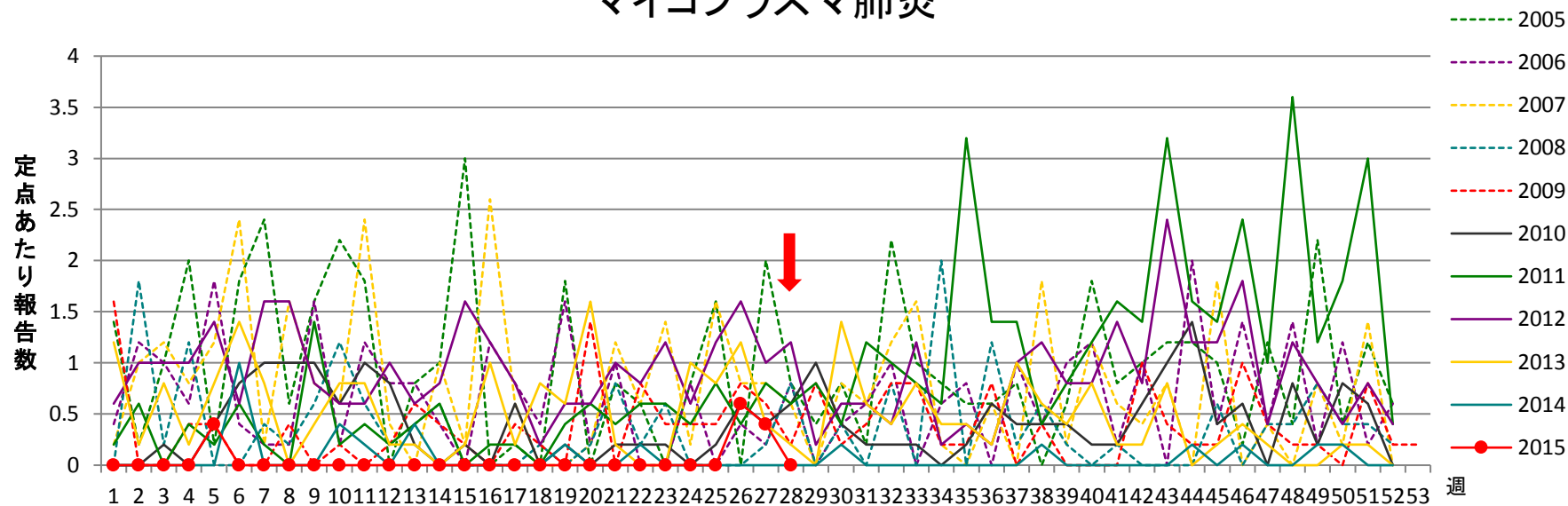
細菌性髄膜炎



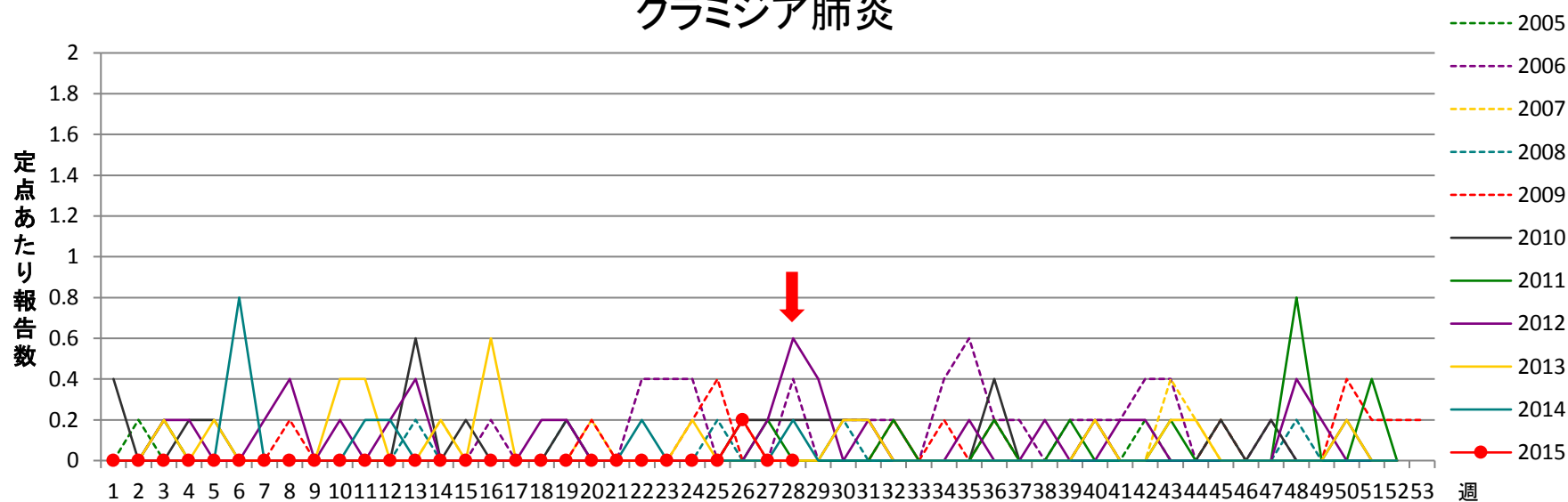
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

